

災害の種類	労働災害	工事等区分	擁壁工事
事故内容	建設機械の稼働関連	発生日	R2.5.22
被災状況	骨盤骨折、動脈損傷	発生時刻	10:30

【災害の概要】

□現場の状況

裏込めコンクリートの打設にあたり、コンクリートコンテナ内に作業員が入り、コンテナ内のコンクリートをバックホウのバケットにかき集める作業を行っていた。

□事故の概要

バックホウ側方を一般車両が通過しようとしたため、オペレーターが体を反らして車両を確認したところ、着衣が操作レバーに引っ掛かり、バックホウが誤作動してしまった。

コンテナとバケットの間に作業員が挟まれ、骨盤骨折等の重傷を負った。

【再発防止策】

□問題点

作業員が重機の稼働範囲内に立ち入って作業を実施していた。
安全装置を作動していなかったため、バックホウが誤作動してしまった。

□防止対策

重機作業中はその稼働範囲内に立ち入らない。
重機を操作しないときには必ず安全装置を作動させる。

【事故の状況が分かる写真または図面】



【措置内容】 文書注意

災害の種類	公衆災害	工事等区分	長寿命化型改善工事
事故内容	架空線等の破損	発生日	R2.6.17
被災状況	停電(影響戸数24戸)	発生時刻	14:00

【災害の概要】

□現場の状況

モルタル浮き補修のため、振動ドリルによりメーターボックス周りのRC壁の孔開け作業を行っていた。

□事故の概要

RC壁の孔開け作業を行っていたところ、壁内に埋設されていた電気管をドリルで損傷した。

【再発防止策】

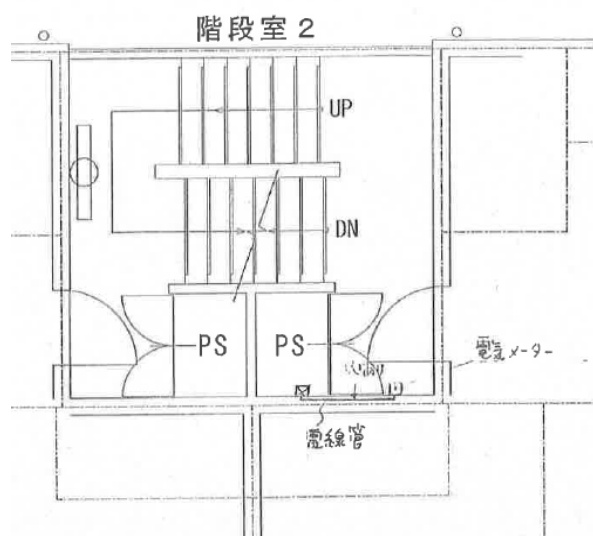
□問題点

メーターボックス周りのRC壁孔開け作業であったにもかかわらず、電気管の埋設位置を確認していなかった。

□防止対策

埋設管の存在が予見される箇所では、鉄筋探査機を使用して事前確認を徹底する。
孔開けやカッター作業を行う場合は、金属センサー付きドラム等の切断防止器具を使用する。

【事故の状況が分かる写真または図面】



○破損した電気管が
埋設されていた外壁面



○破損した電気管（拡大）

【措置内容】

文書注意

災害の種類	公衆災害	工事等区分	道路改良工事
事故内容	地下埋設物の破損	発生日	R2.7.13
被災状況	断水、水压低下	発生時刻	11:15

【災害の概要】

☐ 現場の状況
側溝敷設のため、バックホウによる掘削作業を行っていた。



☐ 事故の概要
側溝敷設のため、管理者への問合せや試掘を実施しバックホウによる掘削作業を行っていたが、水道管（給水管）を破損した。

【再発防止策】

☐ 問題点
図面に記載のない個人所有の給水管が存在した。

☐ 防止対策
管理者のみならず使用者にも聞き取りを実施する。
埋設位置が不確かな場合は、想定位置から十分な離隔を確保する。
埋設シートや地山の変化に注意しながら掘削する。

【事故の状況が分かる写真または図面】

【措置内容】 無

災害の種類	公衆災害	工事等区分	道路改良工事
事故内容	架空線等の破損	発生日	R2.8.4
被災状況	影響なし	発生時刻	16:00

【災害の概要】

☐ 現場の状況
バックホウにより現場事務所撤去後の整地作業を実施していた。


☐ 事故の概要
バックホウにより整地作業を行っていたところ、バックホウアームを上げたまま走行したため、アームが架空線に接触した。
ケーブル結束用のスパイラルハンガーの接続部を破損、被覆部が損傷した。


【再発防止策】

☐ 問題点
バックホウアームを上げたまま走行した。
重機誘導員を配置しておらず、架空線に対する注意喚起が不十分であった。

☐ 防止対策
バックホウ走行時にはアームを必ず下げ、重機誘導員を配置する。
架空線に三角旗、のぼり旗を設置し注意喚起するとともに、必要な養生(防護措置等)を実施する。

【事故の状況が分かる写真または図面】





事故状況(再現)

架空線高さ4.9m

【措置内容】 無

災害の種類	公衆災害	工事等区分	道路改良工事
事故内容	地下埋設物の破損	発生日	R2.8.20
被災状況	停電(影響戸数6戸)	発生時刻	15:40

【災害の概要】

□現場の状況

集水桝基礎設置のため、バックホウによる掘削を行っていた。

□事故の概要

集水桝基礎設置のため、バックホウによる掘削を行っていたところ、埋設電力管を破損した。

【再発防止策】

□問題点

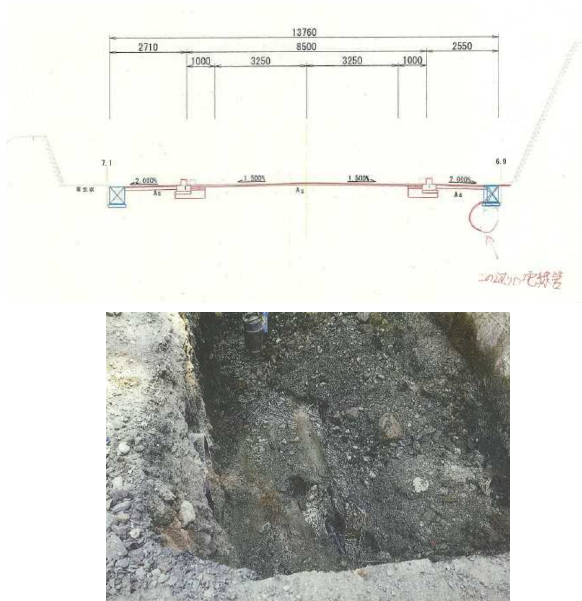
管理者による立会を実施しておらず、埋設管を確認していなかった。

□防止対策

埋設物の事前確認を徹底する。

埋設物に近接して施工する際には人力により施工を行う。

【事故の状況が分かる写真または図面】



【措置内容】

文書注意

災害の種類	公衆災害	工事等区分	道路改良工事
事故内容	架空線等の破損	発生日	R2.8.29
被災状況	影響なし	発生時刻	8:50

【災害の概要】

□現場の状況

擁壁工の施工準備のためバックホウを旋回移動していた。

□事故の概要

バックホウを旋回移動したところ、バックホウアームによりCATV架空線（不使用）を破損した。

【再発防止策】

□問題点

架空線に対する三角旗、のぼり旗等の注意喚起が実施されておらず、確認が不十分であった。
重機誘導員が配置されていなかった。
バックホウには接触防止センサーが搭載されていたが、電源が入れられていなかった。

□防止対策

架空線の事前確認を徹底し、十分な注意喚起を実施する。
センサーなど安全装置の活用を徹底する。

【事故の状況が分かる写真または図面】

架空線状況



【措置内容】

文書注意

災害の種類	労働災害	工事等区分	舗装修繕工事
事故内容	交通事故	発生日	R2.11.7
被災状況	脳挫傷、外傷性くも膜下出血	発生時刻	16:40

【災害の概要】

□現場の状況

工事看板の撤去、測点ナンバーのマーキング作業を誘導員を配置せずに行っていた。

□事故の概要

道路センター付近においてマーキング作業を行っていた作業員が一般車両にはねられてしまった。

【再発防止策】

□問題点

誘導員の配置や警備棒の使用など適切な安全対策を実施していなかった。

工事看板撤去作業中であったことから、一般車両への注意喚起が不十分であった。

撤去作業は下請け業者単独で行われ、元請け業者の現場代理人に作業内容が伝わっていなかった。

□防止対策

誘導員を適切に配置するなど、安全対策を徹底する。

工事看板の撤去順序を工夫し、一般車両への注意喚起を行う。

元請け、下請け間の報告、連絡を徹底する。

【事故の状況が分かる写真または図面】



【措置内容】

無

災害の種類	労働災害	工事等区分	護岸工事
事故内容	建設機械の稼働関連	発生日	R2.11.14
被災状況	死亡	発生時刻	11:30

【災害の概要】

□現場の状況

現場内で大型土のうを転用するため、玉掛け作業を行っていた。

□事故の概要

応急仮工で設置した大型土のうを瀬替えに転用するため、バックホウアームへの玉掛け作業を行っていたところ、オペレーターの着衣が操作レバーに引っ掛かり、バックホウが誤作動してしまった。

誤作動（アームの下げ）により、バケットと大型土のうに挟まれ、作業員が死亡した。

【再発防止策】

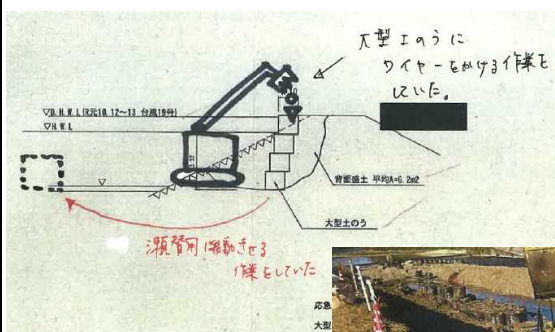
□問題点

作業員が重機の稼働範囲内に立ち入って作業を実施していた。
安全装置を作動させていなかったため、バックホウが誤作動してしまった。
クレーン機能付きのバックホウを使用していなかった。

□防止対策

重機作業中はその稼働範囲内に立ち入らない。
重機を操作しないときには必ず安全装置を作動させる。
重機について用途外使用を行わない。

【事故の状況が分かる写真または図面】



【措置内容】 (検討中)

災害の種類	公衆災害	工事等区分	道路改良工事
事故内容	通行者等への損害	発生日	R3.2.18
被災状況	車両底部破損	発生時刻	4:00

【災害の概要】

□現場の状況

水道仕切弁筐が露出した下層路盤の状態で交通開放を実施していた。

□事故の概要

下層路盤で交通開放を実施していたところ、露出した水道仕切弁筐に車両底部が接触し損傷した。(交通開放に当たりカラーコーンを設置していたのみで、事故当時はカラーコーンが見当たらなかった。)

【再発防止策】

□問題点

露出した水道仕切弁筐周辺の擦り付けが実施していなかった。
看板や投光器等の注意喚起が不十分であった。

□防止対策

工程調整により路盤開放は可能な限り回避する。
やむを得ず路盤開放する場合は、適切な擦り付けを実施し段差を生じさせない。
看板や投光器等を設置し注意喚起を徹底する。

【事故の状況が分かる写真または図面】



【措置内容】 (検討中)